

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	生涯学習推進事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主事
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第3条 野木町立図書館管理運営規則第5条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	一般住民	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	生涯学習推進事業は、「講座・講演会」、「図書館コンサート」、「図書館シネマ」の3つに分けられる。 講座・講演会は読書のまち推進事業の一環として、外部講師等を起用し講座を開催する。 図書館コンサートは、ボランティアを起用し、音楽や朗読等の内容で実施する。 図書館シネマは、図書館所蔵の視聴覚資料を活用し、上映会を実施する。 図書館は、それらのコーディネートを行う。		
	前年度から改善した点	参加者増のため、内容の充実を図るとともに、広報を工夫した。		

(2) 投入コスト	会 計		010 一般会計			予 算 科 目	9 款	4 項	4 目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	2,045	2,063	2,086	2,087	2,087
		事業費等		千円	255	287	270	271	271
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	255	287	270	271	271
		人 件 費		千円×人役	1,790	1,776	1,816	1,816	1,816
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.30	5,920 × 0.30	6,053 × 0.30	6,053 × 0.30	6,053 × 0.30
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	①「講座・講演会」、「コンサート」 講座・コンサート開催の企画・折衝・調整・広報・関連資料の展示・貸出 ②「図書館シネマ」 「みんなでシネマ」の制度を利用し、上映権処理されたDVDのうち優良な資料かつ、興味を持ちそうなタイトルを選定する。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
	講座・講演数	種類	6	7	116.7	6	6	100.0	
	コンサート開催回数	回	3	3	100.0	2	2	100.0	
	図書館シネマ開催回数	回	11	14	127.3	13	10	76.9	
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	・図書以外での図書館利用の手段を感じてもらうことができた。 ・図書館所蔵の視聴覚資料を上映することにより、資料の有効活用ができた。 ・新型コロナウイルスの影響により、2月、3月の図書館シネマが行えなかった。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
	講座・講演延参加者数	人	300	446	148.7	300	275	91.7	
	コンサート延参加者数	人	90	68	75.6	30	30	100.0	
	図書館シネマ延参加者数	人	180	220	122.2	180	221	122.8	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評 価 A. 結びつく	理 由	学習の機会の提供・図書館利用の促進により、読書のまちの推進に繋がる事業である。また、読書が苦手な方でも、映画鑑賞であれば物語に触れられる機会として重要である。参加者を対象に、次第に読書好きになるように誘導する上で必要な事業である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価 A. ニーズが増大している事業である	理 由	近年、生涯学習に対する関心が高まっており、幅広い世代のニーズが増大している。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価 B. 行政主体が望ましい	理 由	図書館管理運営体制によるため、B評価とした。 ただし、上映中の会場管理については、ボランティアとの協働の検討の余地あり。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価 A. 現状が望ましい	理 由	生涯学習事業のうち、図書館事業として、公民館及び交流センター等との事業の棲み分けによるため、A評価とした。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価 A. 保たれている	理 由	町内外等に限定しておらず、HPや広報のぎでお知らせし、参加者を広く募集しているため、偏りは無く、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価 A. 妥当である	理 由	受益者負担を求める事業ではないため、A評価とした。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評 価 A. 成果（サービス）向上や改善の余地がある	理 由	積極的にボランティアを募り、開催するよう努力することで幅広い集客が見込め、利用者の拡大が望める。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価 A. 事業終了の可能性はない	理 由	社会教育施設として、また、図書館法に基づき実施している事業であり、今後も実施していく必要がある。
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善点	主 担 当 者	「講座・講演会」、「図書館コンサート」 各種講座については、ニーズの把握により他の生涯学習施設との調整を図り、新規講座の検討等が課題である。 また、0予算で実施可能な図書館コンサートについては、演奏ボランティアの募集により開催回数を増やすこと等が課題である。 「図書館シネマ」 ・図書館を身近なものとして感じていただくうえで、一定の効果をあげてきたと思われる。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担当係長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	生涯学習の観点から、事業の継続は必要不可欠である。
	2 次 評 価	所属長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちの推進には、必要な事業であるので継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	布絵本製作事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主任
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第3条、野木町立図書館管理運営規則第5条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	図書館が事務局となって、布絵本製作ボランティアに1冊ずつ丁寧に手縫いで製作してもらい、布絵本の所蔵・貸出・保管を行う。健常者・障害者、町民・広域利用者を問わず、全ての利用者が対象。大人が子どもに対して母語で話しかけるためのツールのひとつ。字を読む本とは違って、布の特性である、柔らかさ、温かさ、やさしさを活かし、「見て・触って・楽しめる」絵本であるため、幼児やさまざまなハンディキャップを持った子どもにも利用できる。		
	前年度から改善した点	多くの方から支持されニーズが高まってきた為、貸出冊数が年々増加傾向となっている。貸出形態を全てバーコード管理にし、事務処理を軽減した。		

(2) 投入コスト	会 計		予 算 科 目			款	項	目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,218	1,204	1,235	1,241	1,241
		事業費等		千円	24	20	24	30	30
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	24	20	24	30	30
		人 件 費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	毎月第2、4木曜日を活動日とし、当館に所蔵する布絵本の製作を行う。各年ごとに開催される、「手作り布の絵本のコンクール」や「布絵本交流会」に展示するための作品の製作も行い、ボランティアの方々のスキルアップを目的としている。また、新規布絵本製作ボランティア育成の為に既存のボランティアが講師となり、布絵本講座を年4回実施。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	布絵本所蔵冊数	冊	96	96	100.0	98	99	101.0	
	布絵本講座開催数	回	4	4	100.0	4	4	100.0	
	野木町煉瓦窯タペストリー完成	個	1	1	100.0				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	読むばかりでなく、「見て・触って・楽しめる」絵本であるため、幼児や様々なハンディキャップを持つ方も利用することが出来る。フェルト・ボタン・ひもを材料に作られており、遊びを通して、指先の感覚をやしなうことができる。ボランティアが1冊ずつ丁寧に手縫いで作り上げるため、布やフェルトの温かな感触から子どもたちに手作りのぬくもりを伝えることができる。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	布絵本貸出冊数	冊	230	258	112.2	250	250	100.0	
	布絵本講座参加者数	人	10	13	130.0	10	13	130.0	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	所蔵数が事業ともに県内随一であり、布絵本の利用が定着しつ つある。また、ぬくもりのある布絵本を介して親子のふれあいを望める 必要な事業である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	乳幼児・小学生、また、小さいお子さんを持つお母さんたちに大変 好評でありニーズは高い。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	布絵本製作は図書館がキット等の材料を購入し、ボランティアが製 作している。完成品を購入する場合、キット等のみの倍以上の価格 になる。
		A. 実施済み・できない		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	上記の通りボランティアと協働し製作しているため、コストは押えて あり、現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	布絵本のはじまりは障害者向けであったが、現在は乳幼児から祖 父母まであらゆる利用者が対象であるため、受益者に偏りはない。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	図書館事業の一環であるため受益者負担を求めるものではない。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	多くの利用者から好評を得ている布絵本を通して、野木町のPRを 行う等にも活用できるため、むしろ推進すべき事業である。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	多くの方から支持され、好評を得ている布絵本のニーズは高く、継 続すべき事業である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	平成30年度は、「わたしたちの野木」タペストリーが完成し、展示を通して多くの目に触れることで野木町をPRすることができた。また、町民に対しても、改めて郷土に関心を持ち、心寄せるきっかけを作ることができた。このことを受けて、次は煉瓦窯の布絵本製作が始まった。国指定重要文化財である野木町煉瓦窯の布絵本製作に取り掛かるため、当時を知る「野木町煉瓦窯を愛する会」のボランティアの方に協力を得て、絵本の構成から作り上げていく。大変だが、今後、町をPRできるよう、そして未来の子供たちに温もりのある布絵本として残せるよう、心を込めて作成できると良い。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	他の図書館と比較しても、先進的な取り組みを行っている事業であり、単なる布の絵本としてだけでなく、郷土に関心を持つきっかけともなるため、ふるさと愛等の様々な表現ができるツールとして、これからも事業を拡大するべき事業である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	すべての方が対象であり、本町の特徴的な取り組みであるため、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館ボランティア事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主任
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第三条、野木町立図書館管理運営規則第五条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	既存ボランティアの方々及び新規加入者	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	図書館の事業(書架の整理、本の修理・美化、リサイクル本の処理、イベント等のお手伝い、周辺施設の美化活動など)を手伝ってくれるボランティアとの協働事業。		
	前年度から改善した点	図書館ボランティアの募集を随時行い、図書館のHPや町広報誌を活用して活動内容を周知した。読書のまちとして図書館運営を活性化させるために、イベントごとのアンケートを見直し、ボランティアからの意見や提案を取り入れるよう努力した。		

(2) 投入コスト	会計		区分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
	事業費	財源内訳	コスト総額		千円	1,247	1,237	1,211	1,211	1,211
			事業費等		千円	53	53	0	0	0
			国支出金		千円					
			県支出金		千円					
			地方債		千円					
			その他		千円					
			一般財源		千円	53	53	0	0	0
			人件費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211
			正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20
			正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
			その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・各ボランティアの登録及び更新 ・図書館ボランティア向け説明会及び研修会			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				説明会開催回数	回	1	2	200.0	1	1	100.0
				研修会開催回数	回	1	2	200.0	1	1	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・年間を通し書架の整理等を含む図書館の美化が保たれ、イベントの開催などが滞りなく開催されている。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				図書館ボランティア登録者数	人	20	25	125.0	20	27	135.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	読書のまちづくりの拠点として、図書館活動を推進する上で、ボランティアとの協働は必要不可欠である。
		A. 結びつく		
(2) 効率性	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	ボランティアとの協働は図書館運営において不可欠であり、ニーズは高い。
		A. ニーズが増大している事業である		
(3) 公平性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	野木町立図書館において活動するボランティアとの協働事業であるため、行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
(4) 総合評価	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	専門的な内容のボランティア養成については、図書館だけでなく、関係機関との連携も図り養成していくものである。
		A. 現状が望ましい		
(5) 今後の課題・方向性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	主要な役割に偏りがなく、公平性が保たれている。
		A. 保たれている		
(6) 今後の課題・方向性	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	図書館において読書のまち推進のために活動するボランティアの協働事業であるため、受益者負担はない。
		A. 妥当である		
(7) 今後の課題・方向性	事業再検討の余地	評 価	理 由	ボランティアとの協働は必要不可欠であり、活動の充実を図るため、継続して行う必要がある。
		B. 再検討の余地はない		
(8) 今後の課題・方向性	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	読書のまち推進及び図書館運営上、ボランティアとの協働は必要不可欠である。
		A. 事業終了の可能性はない		

5. 今後の課題・方向性				
(1) 改善点	主 担 当 者	ボランティアとの協働を推進するために、関係機関と連携をし、資質向上のための支援を行うとともに様々な機会を継続的に提供する。また、新たなボランティア育成のための方策について自ら学習する等、自己啓発を図る。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちづくりの拠点として、図書館においてのボランティアとの協働は必要不可欠であるため、今後も継続してボランティアの募集や養成、研修を行っていく。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館運営にはボランティアとの協働が必要不可欠なため、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1)事務事業名	ブックプラスOne！事業		(2)新規・継続評価の別		継続
(3)総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5)主担当者区分		主任
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6)関連する課		
(7)根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第3条、野木町立図書館管理運営規則第5条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町内全小学校新1年生	実施期間	H31.4 ～ R2.3
	事業内容	ブックスタートのセカンドステップとして、野木町内の小学校に入学する全ての児童に本を一冊贈呈し、家庭においても読書に親しむ環境づくりをする。また、読み聞かせ時期から自分で読書をする移行期に、読書への関心を高め、読書を通して子どもたちの豊かな心を育む。		
	前年度から改善した点	入学時に手渡せるよう準備を進めた。(令和2年度入学式に実施) 保護者への事業説明時に贈呈本の展示が好評であったので、今年度も同様に町内小学校と連携し、展示を行った。		

(2) 投 入 コ ス ト	会 計					予 算 科 目	款	項	目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,626	1,396	1,437	1,516	1,516
		事業費等		千円	432	212	226	305	305
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	432	212	226	305	305
		人 件 費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	・入学式当日、野木町内の小学校に入学するすべての児童に本を1冊贈呈 ・贈呈本の選書 ・新1年生保護者向け事業の説明 ・申込書配布→回収 ・贈呈本発注及び購入 ・贈呈本配布			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
	対象人数	人	198	198	100.0	212	212	100.0	
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	家庭においても読書に親しむ環境づくりの援助をすることで、読書への関心を高め読書を通して子どもたちの豊かな心を育む。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
	配布冊数	冊	198	198	100.0	212	212	100.0	

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価 A. 結びつく	理 由	「キラリと光る読書のまち野木」の推進事業であると共に、子育て支 援のセカンドステップとした事業である。
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価 A. ニーズが増大している事業である	理 由	読み聞かせ時期から自分で読書をする移行期に、読書への関心を 高め、子どもの読書活動推進に必要な事業である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価 B. 行政主体が望ましい	理 由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づき、継続的に町をあげて 読書推進活動に取り組み、子どもたちに本との出会いの機会を町 が直接提供するものである。
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価 A. 現状が望ましい	理 由	読書環境を整えることであり、現状が望ましい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価 A. 保たれている	理 由	町内の小学校に入学するすべての児童が対象であるため、受益者 に偏りはない。
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価 A. 妥当である	理 由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づくものであると共にブック スタートのセカンドステップとして継続的に読書環境を援助してい くうえで、妥当と考える。
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価 A. 成果（サービス）向上や改善の余地がある	理 由	選書について、現場の生の声を聴くため学校の先生や学校図書館 司書と連携を組み意見等徴収し、より良い選書を行う。
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価 A. 事業終了の可能性はない	理 由	「キラリと光る読書のまち野木」宣言に基づき、町をあげて読書推進 活動に取り組み、継続的に取り組むべき事業である。
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	自分で読書する習慣を身につける移行期である時期に、読書の楽しさに気づかせ、習慣付けができるように、今後も町内各幼・保・ 小と連携し、こどもの読書推進活動の援助をしていきたい。また、贈呈本リストの見直しを図り、より良い図書をこどもたちに届けられる よう、選書に力を入れたい。事業計画の煩雑なところを改善し、スムーズに行えるよう検討したい。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	ブックスタートのフォローアップ事業として、子どもの読書の基盤作りになる事業であるため、今 後も継続すべき事業である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	「読書のまち野木」の特徴的な取り組みであり、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館資料整備事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主事
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第3条、野木町立図書館設置条例第1条、野木町立図書館管理運営規則第2条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	町民が求める情報を提供することを目的とし、図書、その他の視聴覚資料等を収集、整理、所蔵する事業。また、高齢者や障がい者向けの資料として、CD文庫、大活字本等を積極的に配備する。また、図書館の資料として保存年限を過ぎたものや、古くなった本、寄贈された図書等で図書館として所蔵しない本について、希望者に無償で配布する(リサイクル)。		
	前年度から改善した点	利用者のニーズに合った図書館資料を偏りなくそろえた。 また、利用の見込まれない古い資料を選別し、廃棄を行った。		

(2) 投入コスト	会 計		010 一般会計			予 算 科 目	9 款	4 項	4 目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	10,423	9,740	7,866	8,898	8,898	
		事業費等		千円	7,596	6,957	4,968	6,000	6,000	
		財源内訳	国支出金		千円					
			県支出金		千円					
			地 方 債		千円					
			そ の 他		千円					
			一般財源		千円	7,596	6,957	4,968	6,000	6,000
		人 件 費		千円×人役	2,827	2,783	2,898	2,898	2,898	
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.44	5,920 × 0.44	6,053 × 0.44	6,053 × 0.44	6,053 × 0.44	
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.50	357 × 0.50	470 × 0.50	470 × 0.50	470 × 0.50	
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	目標			実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)	
	利用者のニーズに応じた図書及び視聴覚資料の充実。	蔵書点数(本館)	点	150,000	164,376	109.6	150,000	162,014	108.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	目標			実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)	
	・年間貸出点数の維持 ・図書館に寄贈され、配架に至らなかった本や、除籍資料等の有効活用を図ることができた。 ・除籍資料の再利用により、読書推進活動に繋がった。	貸出点数(本館)	点	180,000	188,697	104.8	180,000	172,080	95.6
		うち60歳以上	点	50,000	83,521	167.0	50,000	76,861	153.7
		リサイクル冊数	冊	10,000	10,232	102.3	1,750	3,462	197.8

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	利用者のニーズは多岐にわたっており、利用者に有益な図書を購 入するためにも必要な事業である。 また、図書のリサイクルはより多くの方に再利用していただき、読書 の機会が増えると見込まれる。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	図書購入のリクエストが利用者から多数寄せられ、原則、応じてい るのでニーズに即しているといえる。 リサイクルについては、町民が持ち寄った寄贈図書も利活用できる ので、多くの方に喜ばれている。
		B. ニーズが横ばいの事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	登録、装丁業務については、すでに一部外部委託をしている。 また、リサイクルは既にボランティアとの協働を行っており、その他 の事務についても現状のまま行うことが望ましい。
		A. 実施済み・できない		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	類似事業との統合、連携は考えられない。また、町民へのサービス 維持のためコスト削減は難しい。 また、リサイクルは利用者に対し無償で提供するものであり、現状が 望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	利用者のニーズに応じ、図書資料を分類・分野等偏り無く購入して いる。また、リサイクルについては町内町外に関わらず、すべての 人を対象としている。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	図書館法第17条(入館料等)により受益者負担を求める事業では ない。また、リサイクル資料は無償提供しており、受益者負担はなく 妥当である。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	利用者のニーズに応えられているため。また、リサイクルは図書館 ボランティアの協力により、スムーズに行うことができている。また、 運営の反省点を翌年に生かす等、特に問題なく実施できている。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	図書購入・登録・廃棄は図書館運営上必要不可欠の事業である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	・利用者のニーズに応じた図書資料を偏り無く購入する。 ・郷土資料の充実を図る。 ・蔵書の少ない、かつ利用者の需要の高い分野について、資料の充実を図る。 ・「図書資料の除籍に関する要綱」に従い適切な除籍処理を行い、リサイクル資料として町内公共施設や利用者への有効活用を図る。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館運営上、必要不可欠の事業である。また、IT化に伴う電子資料の導入等が課題である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館資料充実のため、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	読書のまちづくり推進事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主事
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		こども教育課
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町民の読書活動の推進に関する条例			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	読書のまち宣言を機に読書のまちづくり推進のために始まった事業である。 読書コンクール、読書ノート活用事業「多読賞表彰」、図書館まつり等の計画・関係機関との調整及び実施。		
	前年度から改善した点	平成30年度の反省点を生かし、企画・運営を行った。		

(2) 投入コスト	会 計		010 一般会計			予 算 科 目	9 款	4 項	4 目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	2,316	2,304	2,189	2,342	2,342
		事業費等		千円	204	204	56	209	209
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	204	204	56	209	209
		人 件 費		千円×人役	2,112	2,100	2,133	2,133	2,133
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.25	5,920 × 0.25	6,053 × 0.25	6,053 × 0.25	6,053 × 0.25
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50	1,240.0 × 0.50

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・読書コンクールについては、6月頃から募集チラシや実施要綱等の準備を進めて町内の幼稚園、保育園、小中学校に配布、作品募集依頼。 ・図書館まつりは、各おはなしボランティア及び図書館ボランティアの協力を得て、企画検討を行い開催した。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				読町コンクール	回	1	1	100.0	1	1	100.0
				図書館まつり	回	1	1	100.0	1	1	100.0
				多読賞表彰	回	1	1	100.0	1	1	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・読書コンクール開催により、多くの子どもたちが本に親しむ機会が増えた。各校に応募作品の選考を依頼し、一次選考がスムーズにできた。 ・図書館まつりの内容を図書館寄席、ミニコンサートなどの多彩な催しを開催した結果、多くの来館者が見られた。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				図書館まつり来館者	人	1,000	1,782	178.2	1,000	1,895	189.5

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	読書のまちづくりの推進事業として目標に結びつく。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	達成度は100%を超えており、ニーズの高い事業である。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	読書のまち推進に関する条例に基づく事業であり、行政を主体と して学校や関係機関等との連携強化を維持していく必要がある。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	各学校や地域住民及び利用者に理解を求めながら各事業を効率 的に行っている。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	幅広い年齢層の方々を対象としており、広く一般的に広報している 為、公平性は保たれている。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	読書のまちづくり推進事業の一環であり、受益者負担はない。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	多読賞表彰について、申込手続き等で各校の担当教員との共通 理解をすることができ、スムーズに行うことができた。反省点等を踏 まえてより良い事業となるよう改善をしたい。
		A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	読書のまちづくりのために必要な事業であるため、継続すべき事業 である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	・多読賞表彰について、令和2年度より読書ノート3冊を終了するごとに図書館まつりで表彰される方法に変更した。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちづくり推進事業として、今後も内容について協議検討し、継続して実施する。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	現状に満足することなく、さらに改善しながら今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	移動図書館事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		係長
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町立図書館管理運営規則第16条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	町内各小学校児童、町内各幼稚園・保育園児	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	主に児童図書を積載した、移動図書館車(ひまわり号)巡回による貸出業務の他、こどもたちの要望(リクエスト)に応じ、次回巡回時に資料を提供する。		
	前年度から改善した点	各小学校図書館司書との連絡調整を密にし、児童のニーズに対応できるように努めた。		

(2) 投 入 コ ス ト	会 計		予 算 科 目			款	項	目		
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	1,562	1,502	1,464	1,466	1,466	
		事業費等		千円	328	282	206	208	208	
		財源内訳	国支出金		千円					
			県支出金		千円					
			地 方 債		千円					
			そ の 他		千円					
			一般財源		千円	328	282	206	208	208
		人 件 費		千円×人役	1,234	1,220	1,258	1,258	1,258	
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.10	357 × 0.10	470 × 0.10	470 × 0.10	470 × 0.10	
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・町内各小学校年間10回(8月・3月を除く)巡回 5校×10回＝50回 ・町内各幼稚園・保育園年間2回巡回 4園×2回＝8回 ・POP本や季節の本の展示により、児童の興味関心のある資料の提供			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				小中学校巡回回数	回	50	49	98.0	50	50	100.0
				幼稚園保育園巡回回数	回	8	8	100.0	8	8	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	生徒児童等が読書に対し興味関心を持ち、読書活動が持つ多面的な機能の発揮に繋がっている。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				貸出人数	人	5,500	7,389	134.3	5,500	7,898	143.6
				貸出冊数	冊	14,000	16,770	119.8	14,000	16,322	116.6

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	読書の町づくりに欠かせない事業であり運営は概ね良好である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	図書館から離れている地域の学校にも出向くため、ニーズも大変大きい。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	各学校等との連携事業のため、行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	図書館と各学校等との連携事業であり、現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	子どもたちが本にふれる機会の公平性は保たれており、読書環境 の向上を図っていると言える。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	受益者負担を求める事業ではないため、A評価とした。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	図書館から離れている地域の学校にも出向くため必要不可欠である。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	図書館と各学校等との連携事業として行っているものであり、上記 の理由により継続すべき事業である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	読書のまち野木に相応しい読書環境整備につながるものとして推進していきたい。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	町立図書館に来館できない子ども達のために、必要不可欠な事業である。また、移動図書館車導入より24年経過していることから、車両の更新の検討が必要である。
	2 次 評 価	所 属 長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	子どもたちが読書への関心を高め、豊かな心を育むためにも必要な事業であり、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

令和2年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和元年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館管理業務		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施策分野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主任
	施策	図書館施設・設備の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町立図書館管理運営規則			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業内容	事業の対象になる相手方	図書館利用者	実施期間	H31.4	～	R2.3
	事業内容	図書館システム、夜間警備、清掃管理、消防設備等点検、冷暖房機器保守点検、エレベーター保守点検、電気工作物保守点検、植栽管理及び図書館建物等の図書館に係る全ての管理業務				
	前年度から改善した点	利用者のニーズにあった読書環境及び施設の改善に向け、トイレの夜間電力を抑えるため電源を切る、冷暖房等の温度管理を細かく行い省エネ化に取り組んでいる。				

(2) 投入コスト	会 計		予 算 科 目			款	項	目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	17,811	19,160	9,181	9,428	9,428
		事業費等		千円	16,617	17,976	7,970	8,217	8,217
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
		一般財源	千円	16,617	17,976	7,970	8,217	8,217	
	人 件 費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211	
正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
		契約業務件数	件	9	9	100.0	9	9	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
	・施設・設備の適切な管理。	管理業務件数	件	9	9	100.0	9	9	100.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	読書のまちの拠点として、図書館施設の適切な管理は重要な事業である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価	理 由	住民の知の拠点として、レファレンス業務等は増大しておりニーズの高い事業である。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価	理 由	読書のまち野木宣言に基づいた関係機関との連携強化を維持していくため行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価	理 由	現在の業務はすでにスリム化しており、類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はない。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価	理 由	町民はもとより、「栃木県南3市2町公立図書館の広域利用」と「関東どまんなかサミット」により、町外の利用者にも公平に施設を利用提供している。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価	理 由	図書館資料のコピーなど手数料については利用者の負担であり、負担割合は妥当である。
		A. 妥当である		
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	現在の業務はすでにスリム化しており、維持管理において再検討の余地はないと思われる。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価	理 由	読書のまちの拠点として、図書館施設の適切な管理は重要な事業である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	図書館施設については、雨漏り対策としての外壁改修や、老朽化したエレベーターのリニューアル等早急に対応する必要があるため、財政面も考慮しながら、計画的に改修して行く必要がある。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	施設については老朽化への対応に努め、図書館システムについては、クラウド化に併せて町内の各小中学校との統合を検討していく。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館を維持するため必要な事業のため、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	おはなし会		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主任
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		子どもの読書活動の推進に関する法律、野木町民の読書活動の推進に関する条例第6条第1項			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町内外すべての乳児、幼児、小学生	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	絵本や紙芝居等の読み聞かせを行い、子ども達が本に親しむ機会を創設することにより、本の面白さを知ってもらうことを目的とした事業。読み聞かせボランティアの協力を得て、より多くの素晴らしい本と子どもたちが出会う機会をつくる。また、読み聞かせに必要な知識や資質向上を図るため、読み聞かせボランティア育成のための講座を開催する。		
	前年度から改善した点	図書館で行うイベントの宣伝チラシに直近のおはなし会の日程表を掲載したり、乳児健診の機会に保護者におはなし会の情報提供を行い、周知に力を入れた。読み聞かせボランティアの人材育成のための講座開催の呼びかけを広く行い、多くの参加者を得てボランティアの資質向上に力を入れた。		

(2) 投 入 コ ス ト	会 計					予 算 科 目	款	項	目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	1,194	1,184	1,232	1,242	1,242	
		事業費等		千円	0	0	21	31	31	
		財源内訳	国支出金		千円					
			県支出金		千円					
			地 方 債		千円					
			そ の 他		千円					
			一般財源		千円			21	31	31
		人 件 費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211	
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×	
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・読み聞かせボランティア団体との年間予定調整、 予定表作成。広報、HP、館内掲示による周知。 ・読み聞かせ資料、手遊び、工作の準備。 ・担当職員、ボランティアによる勉強会、練習会の 実施。 ・ボランティア育成のための講座開催			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				よみかせボランティア 養成講座開催回数	回			2	2	100.0	
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・ボランティアとの協働による、定期的な実施により、 多くの子どもが本に親しむ機会をつくり、親子 で楽しむ時間を提供することができた。 ・おはなし会の帰りに本を借りていく方も多く、図書 の貸出に繋げることができた。 ・ボランティア育成、スキルアップの為に講師を招 き、絵本の大切さを学び、おはなし会に役立てた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				おはなし会開催回数	回	80	99	123.8	80	79	98.8
				おはなし会参加人数	人	800	815	101.9	800	903	112.9
				よみかせボランティア 養成講座参加人数	人				100	95	95.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	おはなしの楽しさ、面白さを体験することで想像力、情緒、感性が豊かになるといわれている。子どもたちにより多く本に親しんでもらうためにもおはなし会は必要である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	少子化の影響からか、参加数は横ばいであり、参加する子どもの低年齢化が見られるが、絵本の読み聞かせは子育てをするにあたり必要不可欠であり、読書のまちを推進していく上で、必要な事業である。
		B. ニーズが横ばいの事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	ボランティアによるおはなし会が9割を占めており、図書館職員によるおはなし会が1割である。日程調整、広報活動等、全体事業との兼ね合いから主体は行政が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	ボランティアとの協働、図書館資料の有効活用等コストをかけずに行っており、現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	乳幼児だけでなく、小学生までを対象にPR等、広く声をかけ公平に努めている。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	おはなし会は誰でも無料で参加できる事業である。 絵本の読み聞かせは子育てをする上で必要不可欠であり、それを語り伝える人材を育成するのは読書の町を推進するにあたり、妥当と考える。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	ボランティアとの協働、図書館資料を有効活用しコストをかけずに行っており、読書のまち、協働のまちの推進の観点からも、継続して行うことが望ましい。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	読書のまちを推進していく上で重要な事業であるため、実施を継続することは、必要不可欠である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	子どもの読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、生きていく力を身に付ける上で欠かすことのできないものである。そのため今後は他市町の実施内容等を参考にしながらPRの工夫に努めるとともに、対象者のニーズに合った内容の見直しを行い、多くのお子さんにおはなし会に足を運んでいただけるよう、事業の充実を図る必要がある。引き続き、絵本の選定力の向上や技術向上など、職員のスキルアップ及びボランティアの育成に力を入れていきたい。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館業務上、必要不可欠の事業である。新規ボランティアの育成が課題である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	子どもが本に親しみ、面白さを知ってもらうため必要な事業であり、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	相互貸借事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主任
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第8条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町在住、在学、在勤の方	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	利用者のリクエストにより、県内外の図書館と連携して、資料の相互貸借を行う。野木町立図書館に所蔵の無い資料を、他の図書館から借りて貸し出す。他の図書館で所蔵の無い資料を野木町立図書館からその図書館に貸し出す。		
	前年度から改善した点	図書館ポータルシステムを最大限利用し作業の時間短縮、効率化を図った。		

(2) 投入コスト	会 計					予 算 科 目	款	項	目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211	
		事業費等		千円	0	0	0	0	0	
		財源内訳	国支出金		千円					
			県支出金		千円					
			地 方 債		千円					
			そ の 他		千円					
			一般財源		千円					
		人 件 費		千円×人役	1,194	1,184	1,211	1,211	1,211	
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×	
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・野木町立図書館に所蔵のない資料について、システム上で県内図書館より借受申請。 ・相互貸借貸出一覧、借受一覧の作成。 ・図書資料の転送手続。 ・県内図書館にない所蔵のない資料については、県外図書館へ文書により借受申請。 ・他図書館から貸出の申請を受けた資料の貸出。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・野木町立図書館に所蔵のない資料を相互貸借により借り受け、利用に供することで、利用者の満足度向上に繋げることが出来た。 ・県外相互貸借により、県内にない資料についても貸出を行うことができた。(送料利用者負担) ・他館からの依頼受付をFaxからweb申請に変更し利便性の向上を図った。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				貸出数	冊	500	849	169.8	500	763	152.6
				借受数	冊	1,000	1,685	168.5	1,000	1,837	183.7

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	利用者のリクエストに対して、すべて購入による対応が不可能なため本事業の役割は重要である。読書のまち推進のため必要不可欠な事業である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価	理 由	野木町立図書館で所蔵していない本にもニーズがあり、利用者のリクエストに対して、すべて購入による対応が不可能なため、本事業の役割は重要である。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価	理 由	個人情報及び他館資料取扱責任があり、図書館間で行う事業のため行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価	理 由	類似事業はなく、コストは人件費のみの通常業務であるため、現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価	理 由	在住・在学・在勤区分の利用者であれば利用できるサービスであり、公平性は保たれている。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価	理 由	図書館法第8条に基づき、県内相互貸借については無料で利用できる。県外相互貸借については、送料のみの利用者負担のため妥当である。
		A. 妥当である		
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	野木町立図書館で所蔵していない本にニーズがあった場合、利用者のリクエストに対して、すべて購入による対応が不可能なため本事業の役割は重要である。
		B. 再検討の余地はない		
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価	理 由	利用者の様々なリクエストのニーズに迅速に対応するため、本事業の役割は重要である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	利用者の多様な要望に応える上で、図書館資料の相互貸借事業は必要不可欠である。情報化社会に対応するため単一の図書館には限界があり、関係機関とのネットワークを密にする等、連携・協力を今後も推進し、事業の充実が重要課題である。今後、リクエストのインターネットによる予約システムを導入したいが、野木町立図書館に所蔵のない資料が対象となり通常予約と異なるため困難である点が検討課題である。		
(2) 評価・今 後の方 針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館業務上、必要不可欠の業務であるため、継続すべき事業である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	利用者のリクエストに応じるためには有効な事業であるため、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館関係団体貸出		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		主事
	施 策	読書活動の拡大・促進	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町立図書館管理運営規則第15条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館関係団体	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	小学校等の読み聞かせボランティア、学童、町内施設など、団体登録をしている団体を対象に、多数かつ長期間の貸出を行う。 また、児童生徒の読書活動推進のため、及び図書館(主に書庫)にある本の有効活用(学習や学級文庫としての活用)を図るため、町内各小中学校7校に200冊から400冊を半年毎に年間2回貸出ししている。		
	前年度から改善した点	生徒児童等のニーズにあった本をリクエストしてもらえるよう、学校司書と連絡を密にした。		

(2) 投入コスト	会 計					予 算 科 目	款	項	目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	967	960	981	981	981
		事業費等		千円	0	0	0	0	0
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円					
		人 件 費		千円×人役	967	960	981	981	981
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.16	5,920 × 0.16	6,053 × 0.16	6,053 × 0.16	6,053 × 0.16
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	1,240.0 × 0.01	1,240.0 × 0.01	1,240.0 × 0.01	1,240.0 × 0.01	1,240.0 × 0.01

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・読み聞かせボランティアを中心に、カウンターで資料の貸出を行う他、レファレンスを受ける。 ・次年度の実施に向け意見を聞くために、年度終了前に担当者会議を開催する。 ・貸出冊数の希望と貸出日の調整を行い、年間予定を作成する。年間予定により本の貸出をする。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				学校貸出回数	回	14	14	100.0	14	14	100.0
				学校貸出冊数	冊	5,000	5,000	100.0	3,600	3,600	100.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・学校司書との連携により、生徒児童等のニーズにあった本のリクエストを受けることができ、読書のまちの推進につなげることができた。 ・読み聞かせボランティアを中心に資料の提供を実施した。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				団体貸出点数(除学校)	点	5,000	4,868	97.4	5,000	6,921	138.4

4. 評価					
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価		理 由	町内小中学校、小学校での読み聞かせ団体、学童や老人保護施設などに貸出を行っている。多数の本を長期間貸出できるため、読み聞かせの勉強会や大勢が集う施設などで利用されており、ニーズに合わせたサービスができています。
		A. 結びつく			
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価		理 由	各団体とも活発に活動しており、ニーズも高い。また、各学校司書の協力もあり、児童生徒の読書ニーズを把握することができるため、ニーズが増大している事業である。
		A. ニーズが増大している事業である			
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価		理 由	読書のまち野木宣言及び子ども読書推進計画に基づき、関係機関と連携し実施しているため、行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい			
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価		理 由	ゼロ予算事業であり、各団体への活動支援として現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい			
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価		理 由	町民に広く読書の機会を届けることを目的としており、登録団体を対象に公平に事業を実施している。
		A. 保たれている			
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価		理 由	受益者負担を求める事業ではないため、A評価とした。
		A. 妥当である			
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評 価		理 由	読書のまちづくり事業の一環として実施しており、各団体の支援活動として多くの利用があるため、引き続き実施していく。
		A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある			
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価		理 由	図書館資料を有効活用し、町民の読書活動推進に繋がるため、継続して行う。
		A. 事業終了の可能性はない			
5. 今後の課題・方向性					

(1) 改善点	主 担 当 者	読書のまち野木宣言に基づいた、読書環境の整備に努めるため、学校司書との連携を密にし引き続き実施していきたいと考える。			
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性	
			C. 事業継続	読書のまちづくり推進のため、継続すべき事業である。	
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性	
			C. 事業継続	各団体とも活発に利用している。また、図書の有効活用のためにも、今後も継続すべき。	
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性	

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	図書館協議会		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	学ぶ姿勢がみなぎるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	読書のまちの推進	(5) 主担当者区分		係長
	施 策	図書館施設・設備の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第14条・野木町立図書館設置条例第4条			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	図書館協議会委員	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	生涯学習課長及び図書館長の諮問機関である図書館協議会の開催等に関する諸事務を行う。 1年間に2回開催している。		
	前年度から改善した点	利用者のニーズにあった読書環境の整備に向け、意見徴収を行った。		

(2) 投入コスト	会 計					予 算 科 目	款	項	目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,655	1,354	1,313	1,330	1,330
		事業費等		千円	163	170	102	119	119
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	163	170	102	119	119
		人 件 費		千円×人役	1,492	1,184	1,211	1,211	1,211
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.25	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	協議会の開催回数とその意見徴収機会			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				3	3	100.0	2	2	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
	生涯学習課長及び館長の諮問機関であり、図書館としての課題及び長寿命化を目指した改修にむけ検討し、様々な意見を聞いている。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価 A. 結びつく	理 由	読書のまちづくりを推進するための中枢である。野木町立図書館の 運営について、協議するための組織である。
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価 A. ニーズが増大している事業である	理 由	図書館法に基づく諮問機関であり、昨今の図書館のあり方の検討 等、意見を徴収する上で必要不可欠である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価 B. 行政主体が望ましい	理 由	読書のまち野木宣言に基づいた関係機関との連携強化に努めるた め行政主体が望ましい。
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価 A. 現状が望ましい	理 由	住民や利用者の意見を聞くための法的位置付けの組織のため、類 似事業はなく、コストの削減もない。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価 A. 保たれている	理 由	図書館の関係機関、団体等から委員を選出し、幅広い多くの意見 を徴収するよう努めている。
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価 A. 妥当である	理 由	図書館法に基づく諮問機関であり、上記の公平性の観点から、受 益者負担を求める事業ではないため妥当である。
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価 B. 再検討の余地はない	理 由	読書のまちづくり事業の一環として実施しており、各団体の支援活 動として多くの利用があるため、引き続き実施していく。
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価 A. 事業終了の可能性はない	理 由	図書館資料を有効活用し、町民の読書活動推進に繋がるため、継 続して行う。
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善 点	主 担 当 者	読書のまち野木に相応しい環境整備等について、さらに活発な意見や協議ができる組織となるよう、課題の提議や問題の洗い出し 等により意見を徴収することにより、多様化するニーズに対応するための「図書館のあり方」を協議していきたい。		
(2) 評価・今後の 方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	図書館法に基づく組織として、読書のまち野木の図書館の運営や読書環境の整備等につい て、幅広く一般からの意見を協議検討する場として、継続するべきである。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	読書のまちづくりを推進するためには、必要不可欠な組織であるため、継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	ブックスタート事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	人を育み生きる喜びがあふれるまち		課	生涯学習課
	分野別目標	安心して子どもを産み育てられるまちづくり		係	図書館係
	施 策 分 野	子育て支援	(5) 主担当者区分		主任
	施 策	子育て支援体制及び施策の充実	(6) 関連する課		健康福祉課・こども教育課
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		図書館法第三条、野木町立図書館管理運営規則第五条、ブックスタート運営会議要領、野木町ブックスタート運営ボランティア設置要領、ブックスタート事業実施要綱			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	4か月・8か月の乳児とその保護者	実施期間	H31.4 ~ R2.3
	事業内容	4・8か月の乳児健診の機会に、すべての乳児とその保護者を対象に、0才からの言葉かけや親子のスキンシップの大切さを実感してもらい、絵本を介して親子の温かな時間を過ごしてもらうために、絵本とブックスタートバックを手渡ししながら、絵本を使った「言葉かけ」や「わらべうた」などのふれあい遊びを紹介し、子育ての支援をしている。		
	前年度から改善した点	ブックスタート事業15周年を記して講演会を開催し、「絵本を介して親子で心ふれあうひとときの大切さ」や「絵本の選び方・読み聞かせのポイント」を学んだ。行政向けのブックスタート研修会を行い、内部の共通理解を図り、改めて事業の必要性を確認した。		

(2) 投入コスト	会 計		予 算 科 目			款	項	目	
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	1,685	1,682	1,714	1,731	1,731
		事業費等		千円	253	250	255	272	272
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円					
			一般財源	千円	253	250	255	272	272
		人 件 費		千円×人役	1,432	1,432	1,459	1,459	1,459
		正規職員		千円×人役	5,968 × 0.20	5,920 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20	6,053 × 0.20
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	357 ×	470 ×	470 ×	470 ×
		その他職員		千円×人役	1,192.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20	1,240.0 × 0.20

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	子育て支援事業の一環として、健康福祉課と協働し、毎月4・8か月の乳児健診時に、ブックスタートボランティアの協力を得て実施。 ・4か月児で手渡し、絵本等の発注・購入。 ・ブックスタートボランティアの資質向上のための定期的な研修会及び勉強会の実施。 ・相互理解を図るためブックスタート運営会議開催。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				ブックスタート開催回数	回	24	24	100.0	24	24	100.0
				ブックスタート研修会等開催回数	回				6	4	66.7
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	ブックスタートは、1組1組の親子とゆっくり話すことができ、親子のふれあいを深める取り組みとして、「子育て支援」や「本と親しむ環境づくり」を届けている。また住民がボランティアとして関わることで、子育てを応援している人が地域にはたくさんいることを保護者に伝え、「行政と住民が協働して行うまちづくり」の具体例となっている。			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				ブックスタートバック配布数	人	167	167	100.0	172	172	100.0
				ブックスタート参加人数	人	167	167	100.0	172	172	100.0
				ブックスタート研修会等参加人数					84	48	57.1

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	子育て支援を目標にした事業である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価	理 由	受診率の高い、乳児健診時に実施するものであり、ニーズは高く好 評である。
		A. ニーズが増大している事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	継続的に続けることで、地域に根付く事業であるため、行政が主体 となり、協力ボランティアと共に事業を実施する必要がある。 また、地域の全ての赤ちゃんに向けて活動を行うことを目的として いるため、行政主体が望ましい。
		B. 行政主体が望ましい		
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	受診率の高い、乳児健診時に行うものであり、現状が望ましい。
		A. 現状が望ましい		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価	理 由	野木町で生まれたすべての赤ちゃんが対象であるため、受益者に 偏りはない。
		A. 保たれている		
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	子育て支援事業の一環として必要不可欠な事業であると共に、読 書のまち野木として継続して実施していくものであるため、妥当と考 える。
		A. 妥当である		
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	対象者である乳児及び産後間もない母にとって外出は大変であ る。少しでも負担を減らせるよう、時間の使い方等関係課同士で連 携し、より良い形にしていく。
		A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある		
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	野木町の特徴的な取り組みであり、子育て支援事業の一環として 必要不可欠の事業である。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善点	主 担 当 者	ボランティア（住民）の協力が必要不可欠の事業であるため、適切な人員確保に取り組む。他課との共同事業であるため、相互が協力し、意見を出し合い、野木町に生まれた全ての赤ちゃんとその保護者のためにより良い事業が提供できるよう、今後も連携を密にしていきたい。素晴らしい取り組みを町民に周知するべく、HPなどを見直し、事業の広報活動に引き続き努めていきたい。終盤は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてブックスタートの実施や研修会の開催の大きな影響が出てしまったので、次年度に引き継ぎ、全ての赤ちゃんに分け隔てなくブックスタートが受けられるよう、配慮していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	他の図書館と比較しても、先進的な取り組みを行っている事業であり、単なる絵本のプレゼントということだけでなく、親子のふれあいを通しての育児の一助や、子どもの読書の基盤作りになる事業であるため、今後も継続すべき事業である。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	「読書のまち野木」の特徴的な取り組みであり、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性